

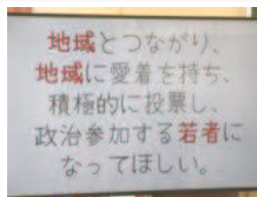
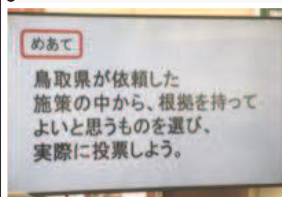
主権者教育の
充実・推進自らの考えを表明する力の育成
～「ちいわか総選挙」「租税教室」を通して～

「Tobu通信号外第7号」で紹介した鳥取市立稲葉山小学校での「ちいわか総選挙」の様子に引き続き、鳥取市立中ノ郷中学校での取組を紹介するとともに、「租税教室」を活用し、生徒が「税」について考える機会を創出している鳥取市立鹿野学園9年生社会科の授業の様子について紹介します。

ちいわか総選挙！



自分が考えた取組案について班で共有し、班の意見をクラス全体で発表した後、良いと思う施策を決めて、投票しました！友だちの考えを熱心に聞き、真剣に考えていました！



【生徒の「振り返り」から一部抜粋】

- 自分の考え一つにも責任があると感じた。
- 政治への関心をもつことができた。18歳からの自分の一票が、県や国のあり方に影響するという責任感をもつことができた。
- 自分たちが暮らす地域のことや、人と人との関わりについて、より身近なものとして考えることができた。自分の意見をしっかりとって投票することが大切で、自分の一票で何かを変えられるかもしれないと思った。
- 美術館を創っていく一人になったことが一番うれしかった。自分の意見を持ち、未来の自分たちや日本のために投票していきたいと思った。



【授業者の感想】

本時の授業では、一人ひとりの「一票」に、力があるということ、そして、それは、何かが変わるための大切な「一票」であるということに気づいてほしかった。生徒がよく考えていた。一票の重みを感じることができたのではないかなと思う。



租税教室



税理士の方を講師として、公共サービスや教育に使われている税金について学び、ディベート等を通して、税金を「公平に集める」ということや「公平に使う」ということについて考えました！

【めあて】なぜ、「税」を納めるのかを説明することができる



【生徒の「振り返り」から一部抜粋】

- 税金を公平に使うことについて考えたディベートでは、「何に多くの税金を使うのか」「どの立場の人の意見を尊重したらよいのか」という点を含め、さまざまな意見がグループやクラスの中から出てきて面白かった。何より、意見に対しての理由がはっきりしていたので、友だちの考えを聞いていてとても楽しかった。
- 税はみんなの生活をより豊かにするために使われていると分かった。これからは、使い道を理解して税と向き合いたい。この学びを活用できるように税への理解と関心をさらに深めていきたい。



子どもたちは、「ちいわか総選挙」や「租税教室」を通して、他者の考えを尊重しながら聞き、ともに考える姿勢や、社会の一員としての役割と責任、自分の考えをもって他者に伝えたり選択したりする力の大切さを、実感を伴って学ぶことができたのではないのでしょうか。

今後とも、各学校におかれては、主権者教育の充実・推進を図っていただき、子どもたちが、地域の課題や税を自分事として捉え、自らの考えを主体的に表明する力をより高めていけるようお願いします。